環境報告書サマリー【継続的改善のための最近の環境活動】

名古屋大学は、環境に配慮した取り組みを促進して全学を挙げて継続的に活動を続けています。それらの活動の概況について紹介します。

受賞の例を赤字で示しています。

=前年度より改善
=改善が必要

報告対象期間	環境管理全般	地球温暖化対策・省エネ対策	廃棄物対策	化学物質管理	市民・学生とのかかわり
2006年度	●環境安全衛生推進本部を新設し、廃棄物処理施設から環境安全衛生管理室への改組による管理体制の強化(2006年4月) ● 環境報告書2006年度版(創刊号)を発行(2006年9月) 医学部附属病院屋上緑化	●エネルギーマネジメント研究検討会の成果発表会～テーマ「名大発省エネ推進と地球温暖化防止」省エネルギー活動本格化(2007年3月) ◎温室効果ガス排出量(CO_2換算、2003年比) 東山地区⇒7.4%↓ 鶴舞地区⇒6.0%↓ 大幸地区⇒21.8%↓	◎可燃ごみ・不燃ごみ廃棄量(対前年比) 東山地区⇒12.2%↑ 鶴舞地区⇒0.4%↓ 大幸地区⇒7.1%↑	●化学物質管理システムガイドライン制定(2006年6月) ●化学物質管理システム(MaCS-NU)利用者講習会の開催(2006年6月) ●300研究室による約10万本の登録 ◎システム登録率⇒88%	●「なごや環境大学」への協力 ●名古屋市内の放置自転車の有効活用を狙い名古屋市と学生の共催で「名チャリ・プロジェクト」の開始(2006年6月～) 社会実験中の貸し出しの様子
2007年度	●環境報告書の自己評価を開始(2008年8月～9月) ●環境会計の報告開始(2007年9月) ●「名古屋市エコ事業所」の認定(2007年10月) ●H19年度省エネルギー優秀事例全国大会「経済産業大臣賞」受賞(2008年1月) ●2008年愛知県環境賞「優秀賞」受賞(2008年3月)	2008経装ポスター　省エネステッカー ◎温室効果ガス排出量(CO_2換算、2006年比) 東山地区⇒増減無 鶴舞地区⇒10.7%↑ 大幸地区⇒0.9%↓	●実験系廃棄物の適正な処理で「大学等環境安全協議会」より表彰(2007年6月) ●廃棄物処理取扱者講習会の開催(2007年6月) ◎可燃ごみ・不燃ごみ廃棄量(対前年比) 東山地区⇒9.5%↓ 鶴舞地区⇒1.9%↓ 大幸地区⇒3.3%↑	●「名古屋大学化学物質管理規程」制定(2008年4月) ●「不要薬品」の集中処理開始(2007年～2008年) ●化学物質管理システム(MaCS-NU)利用者講習会の開催(2007年6月) ●300研究室による約11万本の登録 ◎システム登録率⇒74%	●環境報告書による教育及び学生アンケート調査開始(2007年度から毎年実施) ●「環境問題への挑戦」講座を市民開放型授業として公開(2007年) ●「なごや環境大学」への協力
2008年度	●2008年「名古屋市エコ事業所優秀賞」の受賞(2009年2月) 平成19年度省エネルギー優秀事例全国大会「経済産業大臣賞」 2008愛知環境賞「優秀賞」	●附属図書館とESCO事業者が省エネルギー実現のための包括的サービスを契約(2008年8月) ●「名大発ESCO」省エネルギー推進事業の開始(2008年7月～) ◎温室効果ガス排出量(CO_2換算、2006年比) 東山地区⇒11.0%↓ 鶴舞地区⇒1.0%↑ 大幸地区⇒8.8%↓	●廃棄物処理取扱者講習会の開催(2008年6月) ●名大生協のレジ袋有料化(2008年10月) ◎可燃ごみ・不燃ごみ破棄量(対前年比) 東山地区⇒6.1%↑ 鶴舞地区⇒1.0%↑ 大幸地区⇒26.1%↓ レジ袋有料化のお知らせ	●化学物質管理システム(MaCS-NU)利用者講習会の開催(2008年6月) ●330研究室による約12万本の登録 2008年度有機廃液回収作業風景(東山キャンパス) ◎システム登録率⇒69%	●名古屋大学公開講座開催(2008年8月～10月) ●第四回「ホームカミングデイ」開催―同窓生、学生の家族及び近隣住民約5,000名参加 出演者と子供達によるサイエンスショーでの実験風景
2009年度	●CO_2排出量削減のためのアクションプラン(2014年時点で2005年度比20%削減) ●2009年度「エネルギー管理功績者　中部地方電気使用合理化委員会委員長表彰」受賞 ●「環境報告書賞 公共部門賞」受賞(東洋経済新報社、グリーンリポーティングフォーラム主催)	●鶴舞キャンパスにおけるESCO事業の実施 ●省エネパトロールの実施 ◎温室効果ガス排出量(CO_2換算、2006年比) 東山地区⇒14.1%↓ 鶴舞地区⇒2.8%↑ 大幸地区⇒8.8%↓	●廃棄物処理取扱者講習会の開催(2009年6月) ◎可燃ごみ・不燃ごみ廃棄量(対前年比) 東山地区⇒19.8%↓ 鶴舞地区⇒2.0%↑ 大幸地区⇒14.0%↑	●化学物質管理システム(MaCS-NU)の強化 ●大学内全吹付けアスベスト処置の完了(2010年3月) ●鶴舞キャンパスの作業環境改善に着手 ◎システム登録率⇒63%	●『ECO LABO』プロジェクト(名チャリプロジェクト2009) ●小型家電回収実験の実施 ●大幸キャンパスクリーン(2009年6月) ●騒音対策(防音パネルの設置)を実施
2010年度	●基本姿勢、環境マネジメント、環境パフォーマンス、社会的責任・環境コミュニケーションの4つの基本方針が見える形に環境方針を改訂 ●環境方針と大学の取組を関連づけて編集 ●環境に関連した教育・研究活動等の一覧表の作成	●鶴舞キャンパスにおける附属病院ESCO事業の実績　CO_2削減量7,207t減 ●省エネパトロールの実施 ◎温室効果ガス排出量(CO_2換算、2009年比) 東山地区⇒9.5%↑ 鶴舞地区⇒21.1%↓ 大幸地区⇒18.4%↑	●廃棄物処理取扱者講習会の開催(2010年6月) ◎可燃ごみ・不燃ごみ廃棄量(対前年比) 東山地区⇒3.0%↓ 鶴舞地区⇒6.3%↑ 大幸地区⇒30.0%↑	●化学物質管理システム(MaCS-NU)の強化 ●化学物質の納入時登録システムの導入(2010年5月) ◎システム登録率⇒100%	●環境サークル　Song Of Earth ●COP10に関する協力活動 ごみ拾い活動の様子

名古屋大学における本格的な省エネルギー活動を開始(2004年～)主な活動

名古屋大学の主な活動(建築設備関連の省エネルギー対策は右記※)
①各キャンパス毎の毎月のエネルギー使用量・省エネ対策のホームページ公開(2004年～)
②夏季及び冬季省エネルギーキャンペーン及び昼休み消灯キャンペーン実施(2004年～)
③東山キャンパスにおける夏季の契約電力超過予測時の電力抑止メール発信(2004年～)
④省エネチェックシートによる省エネ活動状況調査と公開(2005年～)
⑤省エネ推進担当者の選任による体制整備(2005年～)
⑥夏季一斉休暇(8月平日2日間)によるエネルギー消費削減開始(2005年～)
⑦省エネパトロールの実施(2009年～)

※ 各種建築設備関連省エネルギー対策(2010年度実績)
①屋上緑化工事(2010年度647㎡、2001年度～2010年度総計8,314㎡実施)
②高断熱型複層ガラスの使用実績(2010年度4,115㎡、2003年度～2010年度総計17,900㎡実施)
③高効率型変圧器の採用実績(東山キャンパス44.8%、鶴舞キャンパス44.9%、大幸キャンパス100%)
④外壁断熱工事、遮熱シート防水、遮熱塗装等建築関連対策実施
⑤照明装置(高効率タイプのインバータ型方式採用)、空調設備(高効率タイプのインバータ組込、人感センサーの採用、省エネルギー効果のあるサーキュレータ採用)、冷却水設備(インバータポンプによる循環方式の採用)等対策実施

問い合わせ先
名古屋大学施設管理部施設管理課
〒464-8601　愛知県名古屋市千種区不老町
TEL:052-789-2137　FAX:052-789-2150
E-mail:sis-sou@post.jimu.nagoya-u.ac.jp

R100 環境保護、資源リサイクルのため古紙配合率100%再生紙を使用しています。
PRINTED WITH SOY INK 環境にやさしい大豆油インキを使用しています。

NAGOYA UNIVERSITY

国立大学法人 名古屋大学 環境報告書 2011

(ダイジェスト版)

本編URL: http://web-honbu.jimu.nagoya-u.ac.jp/fmd/rpt.html

総長のことば

名古屋大学総長

濱口道成

人類と自然の調和的発展に向けて、名古屋大学の挑戦

東日本大震災で被害に遭われた方々に謹んでお見舞い申し上げます。名古屋大学は被災地の一刻も早い復興をお手伝いすべく、これからも全力を上げて支援を続けて参ります。

2010年度は、地震･津波災害と原発事故以外にも、夏場の長期間に渡る異常高温など世界各地でさまざまな異常や災害に見舞われました。さらに、名古屋で開催された生物多様性に関する締約国会議（COP10）などを契機にして、温室効果ガスの継続的削減、生物資源の保護と持続的な活用、自然エネルギー開発などの環境問題に関する重要案件に待ったなしで取り組むことが求められています。名古屋大学は、昨年環境方針を改訂し環境問題への取組の目的や取るべき事柄を明確化させました。この新しい環境方針の精神に基づいて、我が国をリードする基幹大学としての使命を果たすべく、教育･研究･施設整備等を推進しました。その結果、学生サークルによる自主的なキャンパス環境整備への取組、COP10への支援協力に向けた全学での多様な取組、「名古屋大学キャンパスマスタープラン2010」における「低炭素エコキャンパスの実現」目標に向けた建物の新築改修や省エネ設備への更新など、学生･教員･職員など構成員が一丸となった成果を上げつつあります。

私共は、名古屋大学に対するステークホルダーの皆様はじめ社会全般からのご期待にお答えできるよう、これからも全学をあげた環境方針の実現に向けた活動を進めてまいります。この環境報告書2011を通して、名古屋大学の姿と取組の経過･結果をご理解いただき、皆様から叱咤激励ならびに今後の活動に対しご支援を賜れば幸甚です。

2011年 9月

環境方針

名古屋大学は、その学術活動の基本理念を定めた「名古屋大学学術憲章」において、「自由闊達な学風の下、人間と社会と自然に関する研究と教育を通じて、人々の幸福に貢献することを、その使命とする」と記している。名古屋大学は、この学術憲章に基づき、文明の発達や現代人の行動が未来の世代に与える影響の重大さを認識し、想像力豊かな教育･研究活動による人類と自然の調和的発展への貢献と社会的役割を果たしていくために、次の基本理念と基本方針を定める。

1 基本理念

名古屋大学は、人類が築きあげてきた多様な文化や価値観を認め、次世代のために真に尊重すべきことは何かを考え、持続可能な社会の実現に貢献する。

2 基本方針

基本姿勢

(1) 名古屋大学は、環境問題の原因を究明し、これらに適切に対処していくため、すべての学術分野において、持続可能な発展を目指した教育と研究を進める。

環境マネジメント

(2) 名古屋大学は、環境マネジメントの継続的改善を図るため、大学のあるべき姿となすべき行動を関係者とともに考え、実践し、追求する。

環境パフォーマンス

(3) 名古屋大学は、自らの活動が環境に及ぼす影響や負荷を関係者とともに認識し、環境負荷の低減や未然防止に向けた総合的かつ体系的な課題解決に努める。

社会的責任･環境コミュニケーション

(4) 名古屋大学は、法令等の遵守、倫理の尊重、情報の公開、関係者とのコミュニケーションや相互理解を通して、地域社会や国際社会からの信頼を高める。

(平成17年8月1日総長裁定)
（平成22年10月12日改訂）

Topics

環境方針の改訂

名古屋大学環境方針は、2005年8月に制定され運用されて来ましたが、本学を取り巻く環境に柔軟に対応するために2010年10月に改訂をしました。

新しい環境方針では、より実践的な環境活動を名古屋大学の関係者の基本方針として明確にしています。

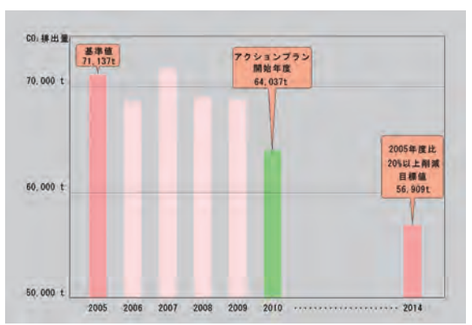
教育･研究活動の紹介

名古屋大学で行われている環境保全活動に関する教育･研究活動を一覧表でとりまとめました。
数多くの教育･研究内容の中から、今回は特に自動車関係の研究についてピックアップしてご紹介しています。

CO_2排出削減のためのアクションプランの実績

名古屋大学は、2014年度における東山･鶴舞･大幸キャンパスのCO_2排出量を2005年度比で20%以上削減することと、その実現に向けてのアクションプランを「名古屋大学キャンパスマスタープラン2010」において公表しました。（環境報告書2010 P.9参照）

アクションプラン開始年度であった2010年度は、夏季に猛暑日が続きましたが建物の空調集中制御など新しい試みを実施した結果、2005年度比で10%の削減となりました。



東山･鶴舞･大幸キャンパスのCO_2排出量

※排出量には、2006年以降の施設面積増加、及び大型実験装置の導入による増加分は加算していません。

ES総合館　超省エネビル

2011年3月、様々な省エネ対策を盛り込んだ「ES総合館」が完成しました。

この建物の正式名称は、「工学研究科中央棟･素粒子宇宙研究棟」です。工学研究科･環境学研究科の建築コースとノーベル物理学賞受賞者である益川先生･小林先生を擁する素粒子宇宙起源研究機構が入居し、ノーベル賞展示室、講義室、講堂、図書室をもつ複合的な研究施設です。

全館LED照明、日除庇+縦ルーバー、屋上緑化、ドライミスト、自然換気システム、アースチューブなどを採用し、CASBEE（名古屋）Sクラスの基準を満たしています。

可能な限りの省エネ機能を盛り込んだ、この「ES総合館」を取り上げ、名古屋大学の施設整備における省エネの取組をご紹介します。

生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）関連の「取組」

2010年10月、愛知県名古屋市で「生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）」が開催されました。この会議は、今世紀前半に日本で行われる環境をテーマとした国際会議の中でも最大級のものです。

本学でも開催に向け公開シンポジウム、名古屋大学博物館特別展等様々な取組を実施しました。これらの取組全てを一覧で紹介し、その中から名古屋大学と支援実行委員会の主催で開催した「COP10社会と学術の対話フォーラム」についてご紹介しています。

環境サークル Song Of Earth

「名古屋大学環境サークルSong Of Earth」は、1994年に環境活動に興味がある学生有志十数名が集まって形成されました。定期的な活動としては、週1回のミーティングと学内清掃、環境活動に関する簡単な勉強会もしています。今回は平成22年度に行った活動について紹介しています。